

平成最後のいろは川柳百句一人

宇宙川柳家元東柳

平成三十年九月九日

しい奴だ何時か何処かで一合一餌
 イクラ井イクラか少いこれ幾ら
 ローマ字も愛より先にエッチあり
 ハグ苦手変な処が当るから
 暗の日に雪ふる狐の出戻りか
 花椿落ちて踏まれて地にぬめり
 ハロウィンにそのまま出てもおかしく無い
 繁盛の寿司屋は客が回される
 日本の子生れ落ちたら借金王
 二次会は一葉程度幹事料
 墓地倒産父母の霊は墓無い命
 臍出しもプラハ娘はやや高め
 ド忘れしレミリアン忘れ死も忘れ
 年老いて地球の自転早くなり
 時計屋で時間を売ってるいくらかな
 父植毛娘脱毛家不毛
 痴漢用専用車輛あれば安心
 リング外れ民を射抜く二本の矢
 ヌルと冷やもめにもめて熱爛に
 留守居もし孤独な清掃ルンバ君
 乙女らが猿股で闊歩夏来たる
 思い遣りペリヤーにかける虹の橋
 我が人生二倍前は江戸時代
 我論す石の地蔵の清い口
 ガングロの厚塗厚底厚かまし
 缶蹴りの缶がぶれて日が暮れて
 風孕み緋鯉は空に子を宿し
 活火山休火山になって妻恋し
 缶ビール呑んでしまえばビール缶
 顔広いと言われてもたつた二センチ
 学生も教授もコピコピペパポ
 買いた物をしないように手をつなぎ
 夜の蝶嫉妬で身を焼き蛾になりし
 脱皮して蝶は蝶に蛇は蛇
 零細は決算偽証絶え絶えと
 組織人世界を知るも世間知らず
 つけまつ毛まばたき險の筋トレか
 遂言つた大統領はそればかり
 年金の川柳出来ず未納気分
 中野区は緑と文化に円が無い
 蘭送り値段が気持ちをやや誇張
 向う見ず手前も見ずに良く転び
 村おこし旗艦座礁しI KE A勝ち
 うちの嫁F A宣言しないでね
 いらぬもの女の鼻毛男の乳首
 偽りを秘める女に潤みあり
 呑んだ朝溶けた悩みが又机上
 野の熊に噛まれた市は村に格下げ
 俺のボケ保険効くかと医者に聞き
 女らしいホロつと言つてセクハラに

お オカアサン俺も言うだろ戦場で
 苦しかったあの頃懐かさに妻涙
 やや太し戦う女の喉仏
 マツチ擦り孫に手品と凝視され
 毛配りがすぎて頭もややススキ
 福袋隅に希望が入つてた
 夫婦仲悪かつたねと線香離し
 節穴も近づく程に見えずすぎて
 腹上死それとも本懐尻下死か
 ぶく刺を一切れ食べて皿回し
 高気密なのに夫婦に隙間風
 黄門の奥方印籠にフンと言ひ
 子が生まれ二人の親も又生まれ
 交流し結婚すればすぐ直流
 小筆の書初め ひじきの行列
 子供の日子づくりの日に変えようよ
 エレベータ閉を押して少し屁を
 デフレ九九四三運用四五一一三
 紫陽花を音で読ませて口説き酒
 あの腹はビールじゃないよ発泡だ
 あの家と家族を支える大根柱
 相槌を大きく打つうちほだされる
 秋深し我が家の家計もナナカマド
 先の杖ころんだ後の松葉杖
 酒楽し時金失い友を得る
 桜舞う四秒程のメヌエツト
 きつすぎてミニの下から尻四つ
 今日だけは嘘は止めとこ四月馬鹿
 共産党共に産んだら多子化かな
 夢持たせ騙し続けて金婚式
 ゆきづりを拒ばれば人生拒まれる
 目出たさに結納寂しさ半返し
 三つ聞き二つ忘れて一つ誤解
 身目鼻齒言魂宿る実芽花葉
 死を恐れ人は文化と子をつくり
 終電車御愛想ですとひと起し
 消店街嗚呼待つ暇や待つ暇や
 人生は真土の前の暇つぶし
 映画館出たら男は皆健さん
 髭剃りが完璧になって定年に
 陽にかざす桜一輪これ爛漫
 人は皆この世かあの世で仲直り
 陽溜りにナースに囲まれ義父出棺
 盛り塩は粋な女将の片乳房
 世界中何処へ行くのかホモ・スマホ
 製紙業再生できるか紙一重
 ゼネコンは新築中でも再建中
 スマホ・メール・イヤーフオンで三猿に
 スッポンを呑んで二人でスッポンポン
 生んだ子ら母犬くわえ並べ見せ